

実験及びレポート提出に関する注意事項（HI4 ハードウェア実験）

2024 年度

1. 実験に関する一般的注意

- ・ 実験時間の延長は原則として認められないので、集中して取り組むこと。
- ・ **携帯電話・スマートフォンの使用は実験結果の撮影を除き厳禁である。** 撮影時以外はかばん等にしまい机の上に置かないこと。（実験結果を撮影せずにレポートを作成しても問題ありません）
- ・ **退出は休み時間のみ許可される。** 緊急に退出したい場合は指導教員に申し出ること。
- ・ 公欠・忌引を含め、欠席した場合はすぐに指導教員に連絡して追実験すること。
- ・ 作業ファイルの保存手段を用意すること。
- ・ 実験機材を貸し出すことはできないが、実験時に使用している開発環境 Quartus 8.1（フリーソフト）のインストール用 DVD は貸し出しているなので、必要場合は担当教員に申し出ること。

2. 評価・レポート提出に関する注意事項

評価について

3 回（各 2 週）の実験評価の平均をハードウェア実験分の最終評価とする。平均の評価が 60 点未満の場合、実験全体の評価が不可となる。

各実験は、取組点（20 点）とレポート点（80 点）で評価する。

レポートは提出点 30 点、内容点 50 点で評価し、提出が 1 週間遅れるごとに 10 点減点、3 週遅れで提出点は 0 点とする。

レポート

各ローテーションを終えるごとに、レポートを Teams から電子提出する。ファイル形式は pdf とする。 提出期限を過ぎてレポートを提出する際は、縄田宛に直接（Teams のチャット機能推奨）レポートを提出すること。

ファイル名は、「番号半角 2 桁+苗字」とする。例：「01 縄田.pdf」

レポートの構成は次のようにすること。

- ・ 表紙(課題名、番号、氏名、共同実験者（いれば）、提出日を 1 ページに記載)
- ・ 目的
- ・ 実験内容（各課題について下の項目を繰り返す）
 - 課題内容
 - プログラム
 - ピン設定情報
 - 結果（結果が伝わりやすいように表現を工夫する）
 - 考察（課題の意義や課題から得られた知見、プログラムのポイント解説など。
うまくいかなかった場合は失敗の分析を含める）
- ・ 感想
- ・ 参考文献

以上